

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2016
No.132

1

大洲



一年の幸福を願い 感謝を込めて

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

河辺中学校 2 年（現：河辺中学校 3 年）

智 葉 瑛 海 さん



私の趣味は、写真を撮ることです。天気が良い日や季節の変わり目などに、カメラを持っていつもの散歩コースに出掛けます。以前、担任の先生の勧めで「えひめの森林・林業写真コンクール」に応募してみたところ、中高校生賞を受賞することができ、ますます写真が好きになりました。

現在は受験生ということもあり、勉強に力を入れています。できれば写真部のある高校に進学して、本格的に写真の勉強をしたいと考えています。

私は、自然豊かな河辺の景色が大好きです。将来は、自分の撮った写真で河辺町を多くの人に紹介できれば、と思っています。また、尊敬する両親のように、正しいこと、悪いことをはっきりと分別できる大人になり、社会貢献できる仕事に就きたいです。

1 月の納税など

納期限は 2 月 1 日(月)です。

税 別	1 月	2 月	3 月	4 月
市 県 民 税		5 期		
固 定 資 産 税	5 期			1 期
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	7 期	8 期	9 期	

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(去年同期)
人口	45,599人 (- 42)	件数 166件(153 件)
男	21,758人 (- 6)	死者 2人(5 人)
女	23,841人 (- 36)	負傷者 222人(198 人)
世帯数	20,232世帯(- 17)	

(2015年11月末現在)

CONTENTS 目次

2 ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3 ページ～	(特集) 福を招いて厄がサル
6 ページ～	新年のごあいさつ
8 ページ～	シリーズ
11 ページ	まちのわだい
12 ページ～	おおずニュース
17 ページ～	おしらせ
25 ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28 ページ	がんばるひと (かわべ扇子踊り保存会)

今月の表紙

picture 写真



昨年度公募により決定した大洲市シンボルマークは、大洲市の「お」の字をモチーフに、肱川を青色で、みかんと太陽をオレンジ色で表現しています。また、マーク全体で、未来へ走り出す大洲市と市民の姿をイメージしています。

今一度みなさんに知っていただこうと、大洲市からの年賀状として掲載しました。

（特集）

福を招いて厄がサル

（さる）申年生まれの大洲市民 紹介します（



大洲市最高齢は申年生まれの城戸さん

明治41年生まれの城戸ミナコさん（写真左）は、平成28年に108歳を迎える申年生まれです。市内の年女として最年長であると同時に、大洲市に住民登録のある人では、最高齢となっています。（平成27年11月末現在）

城戸さんの長男節男さんの妻である照子さん（写真右）も、昭和19年生まれの申年です。今月号では、城戸さんをはじめ、市内の申年生まれの親子を紹介します。

申年生まれの大洲市民

生まれ年	2016年 での年齢	人 数
明治41年（1908）	108歳	1人
大正9年（1920）	96歳	86人
昭和7年（1932）	84歳	539人
昭和19年（1944）	72歳	590人
昭和31年（1956）	60歳	606人
昭和43年（1968）	48歳	534人
昭和55年（1980）	36歳	461人
平成4年（1992）	24歳	336人
平成16年（2004）	12歳	391人

申年生まれ合計 3,544人

（平成27年11月16日現在）

申年あれこれ

申（さる）の本来の読みは「しん」で、草木が伸びきり、果実が成熟して固まっていく状態を表すと解釈されています。

申を動物の猿としたのは、申以外の十二支と同様に、かつての中国で十二支を分かりやすく一般に浸透させるために割り当てられたといわれています。

十二支は古くから年月日や時刻、方角にあてられていました。申の月は現在のおおむね8月、申の刻は午後3時から5時、申の方角は西南西よりやや南寄りを表します。

また、申年に赤い下着を身に付けたり贈ったりすると病が去り、元気になるといった言い伝えもあります。みなさんも試してみてくださいはいかがでしょうか。



写真左から孫の永井妙子さん、城戸節男さん、
城戸ミナコさん、城戸照子さん、長女の向井糸子さん

明朗快活 申年生まれらしい性格

大洲市最高齢の城戸ミナコさんは、明治41年に肱川町敷水地区に生まれました。16歳で結婚し、それから60年以上、養蚕や炭焼きをはじめ、農業全般にいそしんできました。

戦時中は6人の幼い子どもたちを抱え、家を懸命に守っていたそうです。そのころのミナコさんについては、「本当に働き者だった。朝から晩まで仕事をして、子どもながらにいつ寝ているのだろうと思っていた」と、家族のみなさんが口をそろえておっしゃっていました。明るくて手際がよく、いつもせわしなく動いていて、「まさに猿のような人」と、長男の節男

さんは当時のミナコさんを振り返っていました。79歳で大腸がんの手術をした時には、医者から「ミナコさんは筋肉質で、実年齢より10歳若い体をしている」と言われたこともあるそうです。

97歳まで自炊し、畑作業もこなしていたミナコさんでしたが、転倒し股関節の骨折で入院して以降、次第に認知症の症状が出はじめ、100歳を目前にして施設に入所することになったそうです。

取材当日は、孫の永井妙子さんが手作りの猿のぬいぐるみを手渡すと、ミナコさんはぬいぐるみをしっかりと抱きしめ、穏やかな表情を見せていました。



四世代にわたる申年

この日の取材中、申年生まれはミナコさんと照子さんのみならず、節男さんと照子さん夫婦の長女（昭和43年生まれ）、さらには節男さんと照子さんの長男の息子（平成16年生まれ）も申年生まれだということが分かりました。ミナコさんから見ると、義理の娘、孫、ひ孫の四世代にわたって申年生まれがいることになります。

照子さんは、「私とミナコさんは、申年同士、似ているところがある。それは、ミナコさんの息子がであり、私の夫である節男さんが言うのだから、間違いないと思う。2015年は、自分としては大変な年だった。今年は申年なので、いい年であつたらいいなと思う」と話されました。

いつまでも元気で

ミナコさんがかわかみ荘に入所された時から、お世話をさせていただいています。一番驚くのが、とにかく元気で、入所されてから一度も大きな病気をせず、食欲旺盛なこと

もちろん日常生活の介助は必要ですが、食事も自分でしようと思えますし、こちらにも必要以上の余計なお手伝いはしないようにしています。きっと、自分の事は自分でやる、という気持ちの芯がしっかりしているのだと思います。

ミナコさんは、歴代のかわかみ荘入所者の最高齢も更新中です。これからもずっと健康で、いつまでもみなさんから愛される存在でいてほしいと思います。



特別養護老人ホーム かわかみ荘
生活相談員 宮川 千景さん

親子で申年 毎日が幸せな一年にしたい

読書が好きで、インドア派だという母の奈々恵さんと、野球に熱中していて、アウトドア派だという娘のくるみさんは、同じ申年生まれでも、性格は大きく違うそうです。

奈々恵さんによると、「家の中でも常に動き回っていて、じっとしていないので、娘はまさに申年生まれ。世話好きで、小さい子の面倒もよく見てくれるのも、もしかしたら猿に似ているからかもしれない。反対に私はマイペースで、親子でこんなに性格が違うものかと思うくらい」とのことです。

選手に憧れているというくるみさんは、「2015年の一番の思い出は、学童軟式野球大会の新人戦で県大会に出場したこと。今年も、大好きな野球を頑張って毎日が幸せな一年にしたい」と、申年の抱負を元気に答えていました。



村上くるみさん 村上奈々恵さん親子
(平成16年生まれ) (昭和55年生まれ)

性格や好み、考えることや行動まで似ているという鶴谷さん親子は、よく食事や買い物と一緒に出掛けるそうです。

母のさつきさんの話では、「同じ申年だからか、いつもポジティブで、くよくよ思い悩むことはほとんどない。思い立ったらすぐ行動に移すところも似ている」とのことです。

娘の弥生さんも「買い物に行く」と、別行動しても同じものを持っていることがよくある。食事する時も、お皿の上の料理を食べる順番が同じこともある。最近は電話の声が母とよく間違われる」と笑って話されました。

昨年とはどんな一年だったか、そして来年への抱負をお二人それぞれに伺いました。さつきさんは「昨年は一番下の息子の大学受験もあり、忙しかった。子育てもようやく一段落したので、今年は自分の時間を作っていきたいと思う」と話されました。

弥生さんは「2015年は友人の結婚や出産が多く、いろいろな出来事があった。毎々が付くと一年が終わっているの、今年は仕事に生かせる資格取得など、具体的に目標を立て、結果も振り返るようにしたい。とにかく時間を有効に使いたい」と意気込みを語っていただきました。

親子仲良く 今年はずりある年に



鶴谷弥生さん 鶴谷さつきさん親子
(平成4年生まれ) (昭和43年生まれ)

あ い さ つ

地方主導で活力を高める

あけましておめでとうございます。

市民の皆様には輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、旧年中は、市政の各分野にわたり、格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

合併10周年

昨年は、平成17年の市町村合併により新大洲市が誕生してから10周年という節目の年であり、各種記念事業を実施するなかで「大洲市民の歌」とシンボルマークを制作し、記念式典で発表させていただきました。大洲市民の歌「100年後僕らは…大洲より」は、公募により長浜にお住まいの濱田毅さんの作詞が選ばれ、大洲市出身のたきのえいじさんに作曲を、歌手のかとうれい子さんに歌唱を担当していただきました。「生まれ変わってもまた大洲に住みたい。この町の自然や歴史、文化を100年後の未来の子どもたちにもつなげていきたい」という願いを込めたこの歌をさまざまな機会に歌っていくこ

とで、心をひとつにして郷土愛を育んでいけることを期待しています。また、たきのえいじさん、かとうれい子さんを「大洲市きらめき大使」に委嘱させていただきました。大使として大洲市をPRしていただいていますので、今後のご活躍を応援してまいりたいと思っています。

えひめいやしの南予博開催

今年、3月26日から11月20日まで南予全域で「えひめいやしの南予博2016」が開催されます。このような広域イベントは、これまでも内子・大洲・宇和を舞台に「えひめ町並博2004」、宇和島圏域で「えひめ南予いやし博2012」が開催されてまいりました。

町並博では、えひめYOSAKOI祭りが誕生し、ポコペン横丁周辺の整備を行うなど、多くの市民の皆様が参加し、その活動は、現在も継続される形で残っています。今回は、南予全域が舞台となり、広範囲なイベントとなつていますが、これまでの成果を継承し、特に、地域の食文化

や旬の食材をテーマにしたイベントなどで、南予の魅力を体感できる「いやし旅」を全国に発信していきたいと考えています。すでに、大洲霧紀行「漁船に乗って見る肱川あらし体験企画」などのプレイベントが始まっています。多くの観光客をお迎えできるよう、さらに準備を進めてまいります。

地方創生に向けて

現在、少子高齢化・人口減少という厳しい時代を乗り越えていくため、当市も、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく総合戦略を取りまとめています。

この「地方創生」では、自らが地域の魅力を再発見し、地域の活力を高めていくことが求められています。大洲市には、臥龍山荘や長浜大橋、肱川あらし、坂本龍馬脱藩の道などの歴史、文化、自然に加えて、味や品質ともに高い評価を受けているクリやシイタケなどの農産物や特産品など全国に誇れる数多くの地域資源があります。直販施設の「愛たい菜」では、多様な農



大洲市長

ひろし
清水 裕

新年のご

産物や加工商品など、地域の食に関わるブランドを発信することで広域から多くの集客があり、平成24年に創設した「大洲ええモンセレクトション」も39品目を認定し、品ぞろえが増え首都圏へ販路拡大をしていく段階になりました。市内の産品を自信をもって紹介し、それを消費者に買ってもら

ただく仕組みをつくっていくことが、農林水産業従事者の所得向上になり、若者の働く場を確保し定住につながるものと考えています。

本年も、この地域にあるもので、他の地域にはないものを積極的にアピールし、大洲市を知ってもらい、大洲市に来てもらうことができる活力

あるまちづくりに取り組みたいと考えていますので、市民の皆様の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年一年が市民の皆様にとりまして幸多い一年となりますよう心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

さらなる発展に向けて

あけましておめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

世界レベルの研究

さて、昨年は長浜高等学校水族館部の「チーム・ニモ」が、科学のオリンピックといわれる、「インテル国際学生科学技術フェア」の動物科学部門で4等賞を受賞するという快挙を成し遂げられました。次代を担う若い力の活躍は大変喜ばしく、地方の小さな学校であっても世界に通用する研究ができることを証明し、私たちに勇気と希望を与えてくれました。

課題解決への取り組み

一方、本市に目を向けますと、少子高齢化や人口減少の問題を抱え、また、肱川の治水対策をはじめとする防災・減災対策、さらには、産業の振興、中山間地域や中心市街地の活性化など、まだまだ克服すべき行政課題が山積しています。

私たち市議会は、二元代表制の一翼を担っています。市長と常に緊張感のある関係を保ちながら、これらの課題に対して、地域の実情を細かく捉え提言する必要があります。そして政策に反映させることにより、市民福祉の向上や市政の発展に寄与していかねばなりません。

今後におきましても、さま

ざまな課題の解決に向け、市民の皆様の声を十分にお聴きし、議員自ら自己研鑽に努めてまいります。また、市議会の改革・活性化に引き続き取り組みたいと考えていますので、なお一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が活力にあふれ、笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

大洲市議会議長

宮 本 増 憲

